

“トヨタ流・自工程完結”の考え方を導入した各社取り組み事例

テーマ 『一人ひとりが自工程完結の考え方を理解・実践！ ⇒ 業務品質の向上』

【会社名】 住友理工株式会社 品質企画統括部 TQM推進室

I. 活動の種類

【■】1.運営事例

【□】2.テーマ事例

- | | | | | |
|--|---|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> TOPの理解と関心 | <input type="checkbox"/> 活動の意義と嬉しさの体験 | <input type="checkbox"/> ほめる | <input type="checkbox"/> 段取り力向上 | <input type="checkbox"/> 業務改廃 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事務局の充実による牽引力強化 | <input checked="" type="checkbox"/> 計画的な指導員育成 | <input type="checkbox"/> プロセス改善 | <input type="checkbox"/> 再発防止 | <input type="checkbox"/> その他() |
| <input type="checkbox"/> 活動の目的とゴール明確化と実行 | <input type="checkbox"/> その他() | <input type="checkbox"/> その他() | <input type="checkbox"/> その他() | <input type="checkbox"/> その他() |

II. アピールポイント

活動の停滞時期を乗り越え、方向性を変えるには、TOP～社員まで自ら変えていかなければ、現状打破はできない。事務局の仕掛けにより、悪戦苦闘から手ごたえを感じ始めた実態を紹介します。

III. 背景

- ・2008年～モデル職場、事務品質向上委員会で活動開始
- ・2012年社長方針「スタッフの生産性 革新」として全社キックオフ
- ・2015年：活動成果がなかなか成果として表れない。
- ・2016年：ダンドリを重視した自工程完結の考え方による活動ヘシフト。“Re-do Zero活動”として再始動

IV. 運営事例

1. 取組み前

＜背景・経緯＞



2. 取組み後

＜活動の目的・狙い＞

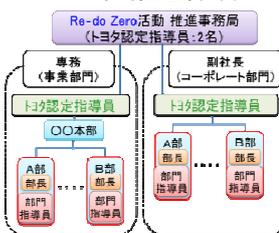
- ・目的：一人ひとりが自工程完結の考え方を理解・実践することで、“**質の高い業務**”に取り組めるようになる。
- ・気づき：**Re-do Zero活動を通じ、うれしさを感じる事が大切!**
- ・狙い：身近な問題を解決し、**達成感＝うれしさ**を感じてもら

ことを重視した活動!!

＜活動のKPI＞

項目	2015年11月(実績)	2016年3月(目標値)
認知度	54.5%	100%
理解度	12.5%	100%
実践度	36.2%	100%

＜全社推進体制＞



＜全社推進計画＞

・認定指導員育成と活動の自立化支援

部門	2017年度				2018年度				2019年度			
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
コーポレート	事務局支援	事務局支援	事務局支援	事務局支援	事務局支援	事務局支援	事務局支援	事務局支援	事務局支援	事務局支援		
事業部門	A部門 事務局支援	B部門 事務局支援	C部門 事務局支援	D部門 事務局支援	E部門 事務局支援	事務局支援	事務局支援	事務局支援	事務局支援	事務局支援		

Re-do Zero活動と名称変更

一人ひとりへの浸透を狙って再スタート

＜推進体制＞

◆旧体制：事務局1名で対応 ⇒ **全社展開力の不足**

◆新体制：**事務局強化**

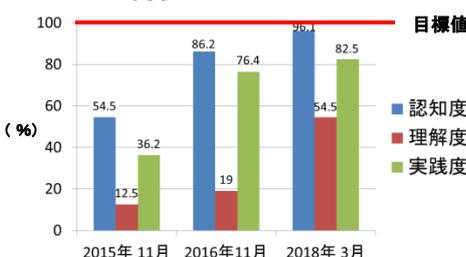
＜推進責任者＞
品質企画統括部：統括部長

＜推進事務局＞
TQM推進室：2名
兼務：2名

トヨタ自動車(株) 業務品質改善部 第1TQM室
'16年4月～'17年9月支援

V. 結果、今後の進め方、所感

＜KPIの現状＞



＜今後の進め方＞

- ①トヨタ認定指導員の計画的な育成 ⇒ 部門/本部単位で認定指導員を育成
- ②自立化への支援の継続 ⇒ 中期視点での計画的な巣立ちを期待
- ③認知度UP策展開 ⇒ 会社TOP・役員との座談会により、期待値理解 ⇒ 社内報に順次掲載
- ④日常での実践に向けて ⇒ 「会議」、「コミュニケーション」、「資料作成」の実践強化策の仕掛け

＜うまくいっている点＞

- ・認知度・実践度については **高いレベル**を継続維持

＜問題点・課題＞

- ・理解度向上も目標未達
→ '18年度は、**更なる理解度向上策の仕掛けが必要!**

＜社長との座談会(2017年12月)＞

Re-do Zero活動で生産性を高め、価値ある仕事を進めよう!

2017年12月、住友理工の社長と役員との座談会。Re-do Zero活動の重要性が改めて認識され、生産性の向上と価値ある仕事の推進が期待されています。

“トヨタ流・自工程完結”の考え方を導入した各社取り組み事例

テーマ『グローバル本社⇄小牧本社の移動に関する利便性向上』

【会社名】住友理工株式会社 総務部

I. 活動の種類

【□ 1.運営事例】

- TOPの理解と関心
- 活動の意義と嬉しさの体験
- ほめる
- 事務局の充実による牽引力強化
- 計画的な指導員育成
- 活動の目的とゴール明確化と実行
- その他()

【■ 2.テーマ事例】

- 段取り力向上
- 業務改廃
- プロセス改善
- 再発防止
- その他()

II. アピールポイント

・グローバル本社と小牧本社間での業務連携が年々多くなる中で、サービス業務である総務部の付加価値である**“お客様に満足いただける対応”**とは何かを考え、後工程の声(意見)をもとに移動時間短縮の改善に取り組んだ事例

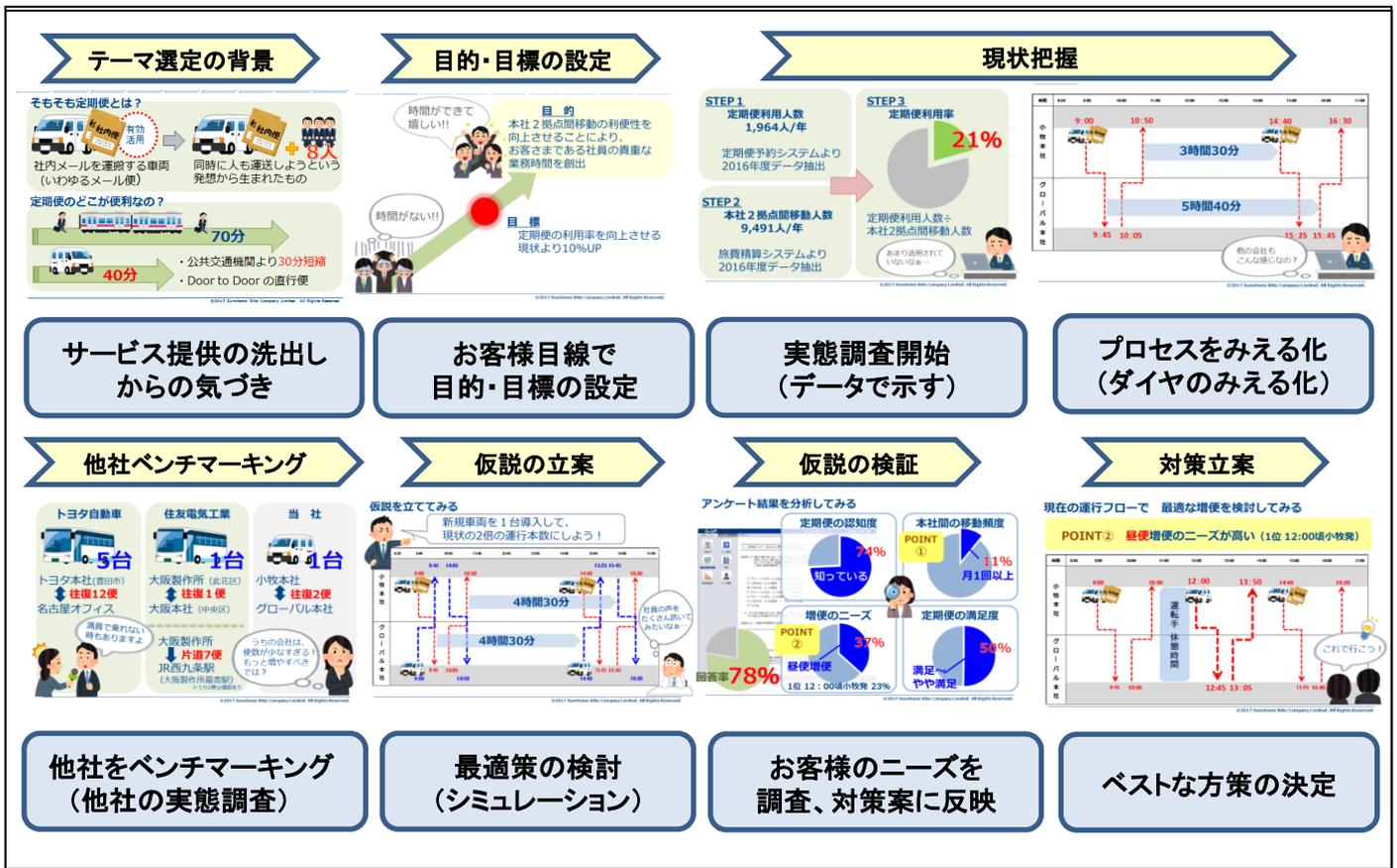
III. 背景

・2016年～グローバル本社稼働開始したことにより、本社が2拠点化し、往來が発生(従来は小牧本社のみ)
・移動方法は、3パターンある。

①公共交通機関 ②定期便 ③公用車



IV. 取り組みの内容



V. 結果

